

令和7年度第2回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和8年3月10日（火） 10:00～12:00

2 出席者

協議会委員	石橋委員	太田委員	角本委員	木澤委員	木村委員	坂下委員
	中山委員	橋本委員	藤井委員	安田委員	森委員	
教委事務局	社会教育課	山本課長	空野指導主事			
県立図書館	野村館長	井上次長				
	櫻井館長補佐兼総務課長	藪本利用サービス課長	前川ふるさと・資料課長			

3 議事

県立図書館運営状況について

館長補佐より「県立図書館の運営状況」（資料1）、次長より「令和8年度 県立図書館の取組」（資料2）に基づいて説明。

- (委員) 学校サポート講座における総合的な学習（探究）の時間の参加者数が、令和6年度と比べて大きく増加している。この増加の要因について伺いたい。
- (図書館) 例えば神戸大学附属小学校では、学年単位で児童生徒が戦争に関する展示を見学しており、これが参加者数増加の主な要因と考えられる。
- (委員) 例えば三田学園の1名で参加している方はどのような内容なのか。
- (図書館) キャリア教育の一環として、生徒1名が単独で来館したものである。
- (委員) 県立図書館の情報資源を活用して探究活動を行う方法について、先生方に研修を実施することはあるのか。
- (図書館) 講座の内容によっては図書館活用に関する講義を行っているが、今回の配付資料には掲載されていない。
- (委員) 参加者数の増加は、現場の教員による図書館活用が進み、学校現場に徐々に浸透していることの表れであると受け止めている。
- (委員) SNSによる発信が着実に向上しており、担当者の工夫と努力がうかがえる。紙媒体以外のPR手法として有効であるため、さらに推進してほしい。特にInstagramは利用者が多く、県立図書館の堅い印象を和らげ、学生にも届きやすい。企業連携も含め、拡散性の高い手法の検討を希望する。県立図書館にしかない資料の存在や、県立図書館の所在・役割を市町立図書館を通じて周知すれば、小中高校生への認知向上が見込める（例：市町立図書館でのチラシ設置）。当館のSNS投稿は見ていて楽しく、好感が持てる。
- (委員) 利用案内等の重要事項は、同一テーマでも数か月にわたり繰り返し発信しても良いと思われる。
- (委員) 電子書籍について、学校の児童生徒の登録者数は増加している一方、アクセス数・閲覧数の伸びがやや鈍化している。月次データの分析により、利用の多い時期を把握してはどうか。また、授業活用の事例があれば共有していただけると、他校の参考になると考える。
- (図書館) 今年度、学校での電子書籍の利用についてアンケートを実施した。集約のうえ今後活かす予定である。

- (委員) 神戸市も小中学生にID・PWを配付している。夏休み前に利用が増加する一方、その後は減少傾向である。利用は小学生が多く、中学生は相対的に少ない。どの書籍が読まれているかを分析し、学校教員と連携して利用促進を図りたい。
- (委員) 芥川賞受賞作家の男性2名はいずれも兵庫県出身の方である。こうした方々を招いたイベントの企画を行ってはいかがか。
- (図書館) 当館主催ではないが、書店商業組合による「ひょうご本大賞」表彰式が当館で行われた。その中で受賞作品『カメオ』の著者のトークショーが行われた。
- (委員) そういった機会を今後も設けてほしい。
- (委員) 令和8年度の取組は多岐にわたり、業務量も相当と拝察する。職員数を伺いたい。
- (図書館) 職員は非正規を含めて34名である。
- (委員) 人員増によりできることが増えると感じることはあるか。
- (図書館) そのとおりで、実現したい企画は多くあるが、マンパワーが不足していると感じている。
- (委員) 新規に所蔵した資料の状況が外部からは把握しにくい。SNSで新刊情報を発信されているが、既に67万冊以上の所蔵があり、地層のように蓄積されている。この価値を発信することで、資料を見てもらう機会を増やしたい。新聞の例では、当月や当日のトピックや特集を組み、1日を3つの時間帯に分けてSNSやHPに掲載している。過去の記事でも時事性に関連付けて再掲載している。図書館においても、今あるものを「今月の」「今週の」「この春の」等の切り口で、毎日でなくとも継続的に発信することを提案する。
- (委員) AI活用により業務負担の軽減が見込める。私自身、図書館勤務の経験があり、人数が少なくても作業の種類は変わらないという課題を実感してきた。県立図書館として、例えば職員向け「AI活用入門」等の研修、レファレンスの下調べ、展示の企画、イベント関連の選書、POP作成、蔵書のキーワード付与・抽出、SNS広報文や読書案内の下書き、選書・除籍・展示の意思決定支援、稼働状況の数値化等のAIにより効率化できた具体例を積極的に試行し、県内図書館に共有してほしい。資料の信頼性判断、地域資料の知識、対話によるレファレンスの深化等のAIで代替し難い領域との役割分担を明確化することで、限られた人員でもサービスの質向上と裾野拡大が図れる。
- (委員) 日本図書館研究会の講演資料でも、レファレンス業務へのAI適用には課題が指摘されている一方、入口の支援としての活用余地はあると示されている。今後、AIの精度向上に伴い、司書業務との役割分担の議論が一層重要になる。目録・分類等では既にAIの活用が進みつつあり、専門職の在り方を検討すべき段階にある。
- (委員) 自身はイラストレーターとして活動しているが、AIによって仕事が代替されるのではないかとの議論がある。しかし実際にはその人にしか描くことのできない作品や、依頼者との対話を通じて生まれる表現があり、AIでは代替が難しい領域も多い。図書館の司書も同様で、定型的な作業はAIに任せることが可能である一方、高度なレファレンスや、積み重ねてきた知識を基に提供するサービスは引き続き司書が担っていくものとする。小規模図書館でも活用できる具体的なAI活用策を、県内図書館に示してほしい。
- (委員) 小規模館は交流面の利点がある一方、作業負担が重い。実務アドバイスの共有により、柔軟な運営が可能になると考える。
- (委員) 展示や講座について、魅力的な企画が並んでいる。展示案はどのように収集・選定しているか。神戸市でも行事等企画委員会を設けているが、意見出しに苦労している。
- (図書館) 展示企画は毎年12月頃に全職員から提案を募集し、その後、幹部で順次決定している。
- (図書館) AIについては図書館職員の研修でも取り上げられており、段階的に取組を進めている。司書資格職員減少への対応や専門性の維持、働き方改革、限られた人員での効率的な業務執

行といった課題を認識したうえで、AIを活用し、より良い図書館運営につなげていき、図書館協議会でもご意見を頂戴しながら県内図書館に展開したいと考えている。

- (委員) 蔵書リストは公開情報であり、AIに学習させることで「〇〇のおすすめを教えてください」といった問い合わせに対し、蔵書と紐付けた回答が可能になる。一般利用者がHPから容易に試すことができることが理想だが、技術・コスト面の検討課題がある。今できることとして、SNS発信に当館が当該資料を所蔵しているかどうかを付記する等の運用が有効だと考える。新刊案内に加え、時事的なテーマ（例：大河ドラマ等）への関心が高まる時期に合わせて発信を行うことや、季節の話題（例：4月の特集）を事前に準備し、SNS上で展開することで、情報に触れる利用者層をより広げることができると思う。
- (委員) 連携展示の場では、紹介本の写真とQRコードを掲示し、その本の横断検索結果ページや予約・電子書籍ページへ直結させると、興味喚起から利用に直結させることができる。横断検索は使いやすいが、現状はサイト深層にあり到達しにくく、横断検索システムをご存知の方でないと思う。HPトップから直接アクセスできるように設置することで利用者の目に留まり、より一層活用していただけるのではないと思う。また、書庫資料の開示や循環により本棚をリニューアルすることで満足度が高まると考える。来年度の計画に協議会の意見を迅速に反映いただいている点に感謝する。
- (図書館) 今年度秋、明石市立文化博物館との連携展示でQRコードを試行し、展示資料リストにリンクさせた。紙のリストも配付し、いずれも好評で持ち帰りが多かった。今後も同様の工夫を図る。
- (図書館) SNS発信について多くのご意見を頂戴した。より多くの方に届く発信となるよう、試行を重ねたい。
- (委員) 引き続きの改善に期待する。QRコードに加え、リンク集サービス（例：lit.link）の活用も有効である。統合したURLを提示すると利便性が高い。
- (委員) 以前から度々県立図書館の講座に参加しており、盛況である。開始前や休憩時間に関連図書を読めるように、受付付近に面陳を行い、興味を持たれた書籍をその場で貸出できる仕組みがあると良い。シニア層の参加が多く、自分の生活に直接関わることに興味があるのではないと思う。認知症関連の講座を開催していただくと、シニア層だけでなく幅広い層の方に参加していただけるのではないと思う。視覚障害者サービスの周知については、HPだけでなく、近隣の関連施設（例：視覚福祉関連施設）にチラシを設置するなど、ターゲットに届く経路の拡充を提案する。
- (図書館) 講座関連図書の掲出は可能な限り実施しており、引き続き行っていく。認知症関連は講座計画の検討材料とさせていただく。
- (委員) 多様な取組に工夫が見られる。かつて通っていた大学では図書館が賑わい、多様なイベントを実施し華やかな雰囲気であったことを想起する。映画等のリラクゼーションイベントの実施により、学生も来館しやすくなると思う。
- (委員) 展示・講座は魅力的で、当館の印象を親しみやすくしている。AI活用に対しては賛否の気持ちが揺れるが、人が発揮できる魅力を最大限に生かしてほしい。蔵書発信は、複数の切り口を同時並行で展開すると相乗効果が見込める。
- (委員) 講座・展示は魅力的である。現在の「マラソンの歴史とランナーを支えるランニングシューズ」は図書館として斬新な企画だが、実現の経緯は何か。
- (図書館) 神戸マラソンの時期に合わせ、担当者（陸上競技経験者）の知見を生かして実現した。展示されているシューズは借用品と私物を併用しており、展示と関連書籍を連動させている。

- (委員) マラソン関連の潜在需要は大きい。開催告知に加え、展示構成(例:並べたシューズ)や関連書籍を個別に発信すると動機付けにつながる。他分野の展示や講座でも同様の「見せ方」の工夫により、もっと魅力を届けられると考える。
- (委員) 靴のクローズアップ写真など、意外性のある視点を出す効果的である。取組を増やすよりも、切り口の工夫によりキャッチーに伝えたい。
- (図書館) 発信方法は参考にさせていただく。
- (委員) 花壇整備のボランティア募集があれば参加したい。図書館の花壇づくりに参加できることは貴重な体験になるので、実現すると嬉しく思う。
- (委員) アウトリーチ事業について、学校セット貸出の貸出冊数が減少傾向にある要因は何か。
- (図書館) PR不足が要因と考える。令和6年度と令和7年度の比較では、大量貸出を行う学校が減少したことで貸出冊数が減少している。
- (委員) 実施年度により差はあるが、総合的な学習の時間や調べ学習では公共図書館の支援が不可欠である。事業の拡充に加え、県教育委員会や高等学校図書館協会等との連携強化を要望する。図書館職員研修の満足度アンケートが高いことや、HPアクセス数や新聞等への掲載件数も上昇しており、努力を評価したい。この協議会の委員の提案に迅速かつ誠実に対応いただいている点も評価する。非来館型の学習機会については、講師の許諾が得られる範囲でオンライン配信を拡充してほしい。情報発信では、来年度の新規施策の中から「目玉」を選定し、神戸新聞等との連携も含めて強くPRしてほしい。
- (図書館) 教育委員会に所属していることから、学校との連携は重要であり、組織的な連携強化に努める。SNS発信については頂戴した提案を踏まえ、次年度に向けて工夫する。